

百二賀のお祝い(102歳)おめでとうございます



娘様とツーショット♡



娘様との写真をカードにしてプレゼント

※許可を得て掲載しています

大正生まれの男性は、1937年（昭和12年）支那事変（日中戦争）、1941年（昭和16年）～1945年（昭和20年）大東亜戦争（太平洋戦争）を経験されました。男子は日本国家のために軍人となり、女子はたくさんの子供を産んで後継者を残せという教育の時代でした。大正世代は大正時代から昭和時代の戦前期にかけて学生時代を過ごし、大日本帝国の時代に最後の若者だった世代であり、昭和時代には青年、男性が正規兵として従軍して、戦争前から～戦中までの時期に軍隊経験がある世代はこの世代が最後となります。また、1964年（昭和39年）東京オリンピックや1973年（昭和48年）のオイルショックを経験されています。

I.Aさんは、大正8年横浜に生まれ、6月28日に102歳になられました。19歳に出兵し25歳までの6年間戦場で兵士として戦っていたとのこと。戦場でのある日、戦っている最中、お母様に「こちらへおいで」と呼ばれました。お母様の声に誘われ声の方へ行くと、もと居た場所に爆弾が落ち「九死に一生を遂げる」といった不思議な体験を幾度もされたとのこと。同期の戦友が隣で爆撃を受けたり、鉄砲で打たれたりと悲しく辛い経験をされ、容易く戦争のことを語れることは殆どありません。命を落とす場面命拾いしたという思い出を語って下さいました。

娘様は「若くして戦争を体験していますが、戦争の事は殆ど話したがりません。よほど辛く悲しい経験をしたのだと思います。父には病気で苦しむことなく、穏やかな毎日を過ごし、穏やかに自分の家で息を引き取ってくれることを願っています」と穏やかに語って下さいました。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子

リハビリテーション・デイサービスへの通所を頑張る利用者様と利用者様を支える奥様
私たち「訪問看護ステーション野の花一同」応援しています



※許可を得て掲載しています

79歳の利用者様は、脳梗塞発症後、思うように体が動かない、食事が上手く飲み込めないなど、大変な時期を過ごされました。退院時には、「自分のことは自分でしたい、自分らしく自宅で過ごしたい」とそんな利用者様の思いを大切に、訪問看護とリハビリテーションを提供しています。

訪問リハビリテーションでは、退院後、自由に自宅で動けることを目標に杖を使ったり伝え歩きなど日々頑張ってきてくれました。甲斐あって最近では、週1回の訪問看護以外の日は、デイサービスに朝から夕方まで通えるようになるまで元気に過ごされています。デイサービスでもリハビリテーションを受けられており、有意義な毎日を過ごしておられます。8月のある日、利用者様から「所長に渡してほしい」と1枚の手作りカレンダーが届きました。カレンダーの色あい、塗り具合は一生懸命さが滲みでており、自筆サイン入りのプレゼントは、とても嬉しくて、胸が熱くなりました。ご利用者様はもちろんのこと、奥様、ご家族様の介護力に心を打たれます。心を込めて、ありがとうございます。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子

お住まいへお伺いし、訪問看護師が「Happy Birthday to You」を歌い誕生日を祝いました。6月1日(火曜日)生まれ82歳のお誕生日おめでとうございます。

2021年2月夜間激しい頭痛に襲われ、脳視床下部が広範囲に障害され手術ができない状況でした。命の危機に直面されましたが、退院の日を迎えられました。4月26日から訪問看護ステーション「野の花」がお住まいへ訪問し、リハビリテーションと看護を提供しています。ご自宅へお戻りになった時は、ベッドから起き上がることができない状態でした。現在では、奥様の介添えは未だ必要ではありますが、座れるようになるまで回復されています。ご自宅へお戻りになり、ご家族様の愛に包まれて生活されているお姿は、私たち訪問看護師に、喜びと感動を与えてくださいます。日を増すごとに、ご自分でできることが増し、「じゃんけん勝負」をしてくださり私たちを楽しませてくださいます。いつまでも奥様と仲良し♡でいてください。人生の1ページに私たち訪問看護ステーション「野の花」が関わらせていただいていることに心より感謝しています。



※写真投稿についてはご家族の承諾を得ております

済生会奈良病院 訪問看護師テーション野の花 所長：丸山節子

念願のお花見



※写真は許可を得て掲載しています

4月6日(水)西日本から東日本にかけては高気圧圏内となり穏やかな天気でした。昼間の日差しのもとでは春本番の暖かさを感じられる一日でした。在宅療養をされてから約1年、念願の「お花見」を実現されました。

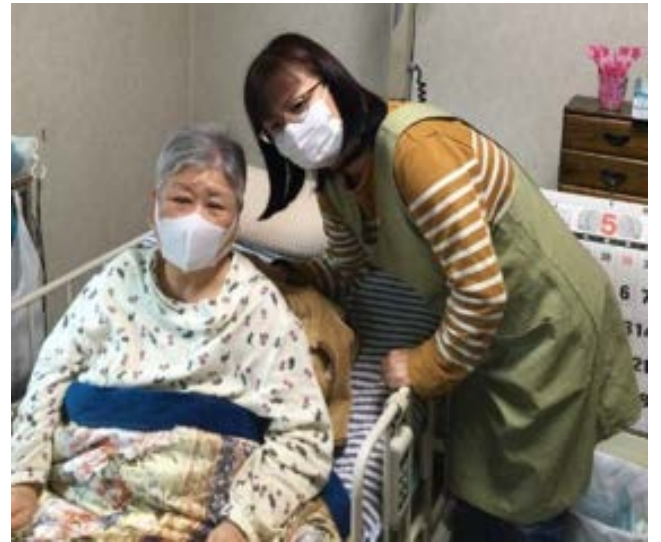
2021年2月夜間激しい頭痛に襲われ、命の危機に直面されましたが4月26日退院の日を迎えられました。退院日から私たち訪問看護ステーション野の花がご自宅へ訪問し、リハビリテーションと看護を提供しています。この一年を振り返ってみると、ご家族様が懸命に介護され今日の日を迎えられたことは、本当に素晴らしいことです。ご家族様は、時間をかけ念入りに計画をされ、携帯用吸引器や介護用車両、安楽に外出できるようにとリクライニング車いすなどの準備をされていました。理学療法士は、外出に備えて、ベッドからリクライニング車いすへの移乗や安楽な体位の保持方法、ご自宅から車へ乗るまでの経路や出入口の確認など、願いを叶えるためにご家族様と共に考え、準備に参加させていただきました。

今回、ご家族様が利用者様と「お花見に行きたい！」という熱い思いが叶えられました。ご利用者様は、大好きな阪神タイガースの帽子をかぶり、ユニフォームを身に着け、笑顔でピースをして喜びを表現して下さいました。そんなお姿を見られたご家族様からは、溢れんばかりの笑顔がこぼれていました。訪問看護師たちは、訪問先からお花見をされている場所へ集まり一緒に「お花見」を楽しみました。この一年、ご家族様の献身的な介護の様子を知っている私たちは、今日の日を迎えられたことがとても嬉しく、同じ時間を過ごすひと時に幸せを感じさせていただきました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子

沢山いただいた絵手紙の紹介

平成7年に麻痺が出現し、難病の一つである多発性硬化症と診断されました。ご本人様からいただいた手紙には、26年前から車椅子生活をしていること。娘さんにご結婚されず本人様の看病にあたり主婦をしてきていることに感謝の言葉が綴られていました。ご本人様は、他人から可哀そうと憐れみをかけられることが一番嫌であること、自分のできることは自分でやりたいと思っていること。そして、3年前から、お住まいへお伺いしている訪問看護ステーション野の花のみんなを家族のような付き合いと書いてくださっていました。今では、車椅子に乗り外出するまで回復されています。今日まで、けして楽な毎日ではなかったこと、様々な出来事に遭遇し、困難を乗り越え現在があることを私たちは理解しているつもりです。私たちは、ご本人様と娘様に会い看護できることに深く感謝しています。ご本人様が、1枚1枚心を込めて書いてくださった絵手紙を一人でも多くの方にご覧いただきたいと考え、「訪問看護ステーション」出入りに展示しています。絵手紙からは、書いてくださっているその時の心模様を読み取ることができます。時には、私たちへの応援や励ましのメッセージが込められていました。看護師をしていて良かったと心から思う瞬間です。新型コロナウイルス感染が収束する頃、お弁当を持って、奈良公園へ出かけることを目標に「野の花」看護とリハビリテーションを提供いたします。



※写真はご本人及び娘様の許可を得ています

済生会奈良病院 訪問看護師ステーション野の花 所長：丸山節子

～涼～



メダカの種類



黒メダカ

北海道以外の日本各地の川や池に生息



白メダカ

江戸時代から楽しまれているメダカ



ヒメダカ

81歳の利用者様のご自宅を訪問しリハビリテーションを提供しています。始めは、卓上で小さな金魚鉢に数匹の黒メダカを息子様から届けられました。その後、白メダカ・ヒメダカと仲間が増え、今では大きな甕で飼育するほど増え続けています。そんなある日、孫様と一緒にメダカのオブジェ作りを楽しまれました。水の中で泳ぐメダカの姿は、涼(りょう)を運んでくれます。外気温35度を超える猛暑の中、ひと時の涼(りょう)に感謝、有難うございます。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子

～涼～



94歳の利用者さん宅へお伺いし、訪問看護を提供しています。訪問時通る度に、庭の池に咲く「睡蓮(スイレン)」の花に、涼(りょう)を感じさせていただいています。

睡蓮は、世界中の熱帯から温帯の広い範囲に分布する植物で、深い切り込みが1本入った円形の葉と、水面に浮かぶ花が特徴です。水位が安定している池や沼で育つ水生の宿根草で、様々な花色を持っています。

睡蓮は、朝に咲いた花が夕方には眠るように閉じてしまいます。この様子と、放射状に広がる花姿から、古代エジプトでは太陽のシンボルとされており、装飾のモチーフや神話などに睡蓮はよく登場します。

学名の「*Nymphaea* (ニンファエア)」は、ギリシア神話に登場する水の精「*nymph* (ニンフ)」に由来するとされています。ニンフは、英雄ヘラクレスに捨てられ、ナイル川に身を投じて睡蓮になったとされている妖精のことです。この伝説とは別に、睡蓮は水辺に咲くことから、花を摘み取ろうとすると魔物によって水中に引きずり込まれるという伝説がドイツなどヨーロッパ各地にあります。

また、和名の「睡蓮」は、夕方になると眠る(睡る)ように花を閉じることにちなんで名付けられました。

花言葉の「信仰」は神聖な花であることにちなむとされています。「清純な心」という花言葉は、野生の睡蓮の多くが白い花を咲かせることに由来しています。

私たちは、睡蓮の花言葉にあるように、「清純な心」で病院理念である『心ある医療』を実践しています。

訪問看護ステーション野の花 所長：丸山節子 2022年8月

今日も訪問へ行く！～秋～

奈良名張線県道 80 号線にある岩井川ダム・田原町を超え、水間(みま)方面のお住まいへ出向き訪問看護を提供しています。Google ナビでは、片道 18km 病院から所要時間 38 分と示しています。

お住まいへ向かう途中、急カーブも多く、慣れない山道ではありますが、秋を感じながら野の花車を走らせています。

少し遠い道のりではありますが「また来てや」「野の花さんがええねん」の言葉に支えられ、看護師一人一人が限られた訪問時間の中で、「今できる精一杯の野の花看護」を提供しています。

一期一会、このご縁を大切に、私たちは訪問看護をこれからもおこない『心ある医療』を提供し続けます。



道路脇に咲く秋桜(コスモス)



お住まいの近くの道端に咲く彼岸花(ひがんばん)

今日も訪問へ行く！～看護学生が同行～

令和4年奈良県内にある大学の看護学生が、訪問看護ステーション野の花に在宅看護実習に来ています。大学3回生の10名が、8/29～1/20までの期間1人2週間、訪問看護の利用者さんを受け持ち野の花の看護師と共に同行し助言を受けながら、日々学び実習しています。

在宅看護学実習では、「健康上の課題を持ちながら在宅で療養する人と、取り巻く人々の理解を深め、在宅看護の実際を学ぶ」ことを目的としています。

2週間という短い期間ではありますが、訪問看護を経験する良い機会となり、訪問看護の素晴らしさを体感してもらえればと思っています。

実習を終えた学生からは、「腹膜透析や腹水穿刺など自宅で行っておられる様子を拝見し、こんなことを家でもされている事を知りました。利用者様は本当に凄いと思いました」

「病院とは違い、自宅で過ごすために、利用者様と話し合いながら看護展開されていて、個別性のある看護だと思いました」「訪問看護の素晴らしさを知りました」など、感想を語ってくれました。実習にあたり、同行訪問を快く受け入れて下さっている利用者様ならびに御家族様に深く感謝いたします。有難うございます。

所長：丸山節子



10月24日未来のナースにふさわしい希望の虹 頑張ってます



訪問看護師と同行「行ってきます！」



同行実習前に訪問看護専用 iBow(電子カルテ)で情報収集「どんなご様子かなあ」



血圧測定を実施「良かった、正常値だ！」

※許可を得て掲載しています

訪問看護ステーション野の花で、済生会奈良病院で勤務する看護師が研修(同行訪問)

済生会奈良病院看護教育部が企画運営している「入退院支援研修」では、済生会奈良病院で勤務する経験の浅い看護師から経験豊富な看護師 12 名が、7 月～12 月迄の期間、1 日訪問看護師に同行し在宅看護について学んでいます。この研修では、患者さんを中心としたチーム医療推進のために、多職種を含めた調整役となる看護師育成を目的としています。

研修に参加した看護師からは、「ご自宅で、その人の生活にあった方法で看護を行っていた」「入院患者さんが退院された時、患者さんがお困りにならないように家でもできるケア方法を話しあいながら練習しておく必要があった」「病院と家では患者さんの様子が違って、辛抱してもらっていたんだと思う」「退院後、日常生活動作訓練をしてもらいお困りのないように退院してもらう必要があった」など、研修生が同行訪問し、訪問看護の実際を知ったことで、多くの気づきがあったと研修生は話してくれました。訪問看護師たちは、学ぶ機会を提供できたことに喜びを感じました。これからも私たちは、利用者様のお役に立てるよう勉強し続け『心ある医療』を提供いたします。



※許可を得て掲載しています

【研修生による看護ケア(髭剃り)の様子】

訪問看護ステーション野の花で、奈良県看護協会訪問看護師

養成講習会に参加している研修生が実習しました！

令和4年度奈良県訪問看護師養成講習会～訪問看護 e-ラーニング活用～（訪問看護人材養成基礎カリキュラム）e-ラーニングは自分の学習目標や仕事での優先順位などによって仕事をしながら自分のペースで学習することができます。視聴時間は約20時間ですが、参考映像・視聴・項目ごとに設けられている終了テストを含めると30～35時間の学習時間が必要となります。e-ラーニングでの学習は、令和4年7月6日～令和5年1月25日の期間で必要な単位を取得していきます。学習のねらいは、訪問看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得し、より質の高い看護ができる訪問看護師を育成することです。

訪問看護ステーション野の花には11月7日～17日の期間に、一人3日間3名が訪問看護師に同行し、実習を行いました。実習生は、他ステーションで訪問看護師として勤務している2名の看護師、これから訪問看護師として勤務したいと考えている看護師1名が来てくれました。実習を終えた研修生からは、「限られた時間の中で、患者さんがご自宅で療養するために訪問看護師の頑張っている姿を見て、より良い看護をするために私も頑張らねば」と思います」「訪問看護師をやってみようと思う」と思いを語ってくれました。

私たち訪問看護ステーション野の花は、病院理念である『心ある医療』を実践するために、共に学び讃えあいながら訪問看護を提供していきます。



嚥下訓練のため、歌謡曲「黒い花びら」を熱唱、歌う回数を重ねる度に滑舌は良好です

※写真は許可を得て掲載しています

所長 丸山節子

2022 奈良ラソン救護班に訪問看護ステーション野の花の看護師が参加

訪問看護ステーション野の花看護師 2 名、病院からは医師 1 名、看護師 4 名、理学療法士 1 名が参加しました。



第 8 救護班メンバー



AED 隊コースを往復巡回「行ってきます」

※写真は許可を得て掲載しています

2022 年 12 月 11(日)最低気温 6.4 度、最高気温 15.7 度、青空のもとスタートしました。朝 9 時号砲と共に一斉にロートフィールド奈良を 12,000 人のランナーがスタートしました。10km コースは奈良市内折り返しコース(1 時間 30 分)、42.195 km コースは(6 時間)天理市役所北側折り返しコースです。途中、鹿も走行するハプニングがありましたが、ランナー達は冬の古都奈良のまちを駆け抜けました。コースには、関所 10ヶ所が設置され近隣の地域住民が給水や誘導などランナーに心を込めたボランティア活動をされていました。救護所は 0~12ヶ所に救護班が設置され、奈良県内の医師・看護師・理学療法士や作業療法士・消防救急隊員・事務員など約 140 名が設置された救護所にわかれ救護にあたりました。救護所では自転車に乗りコースを往復巡回する AED 隊、救護所と沿道でランナーの救護担当に分かれてそれぞれの役割を果たしました。私達が担当した第 8 救護所はランナー達が天理市銀杏並木を走行し天理市役所北側の折返し地点の救護所でした。約 20 名のランナーの救護にあたりましたが命に別状はありませんでした。新型コロナウイルス感染対策徹底されており、ランナーは走行中以外のマスクの着用を厳守し奈良マラソン開催後 1 週間が経過しましたが奈良マラソンに携わった方々からの感染報告はないとのこと。参加した 1 人 1 人の熱い思いと力が成功へと導いたことに感極まりました。

所長：丸山節子